

地域づくり通信

平成28年10月

第30号



地域デビューを受け入れる工夫

「なかなか新しい人が参加しない」、「参加した人が定着しない」という悩みを持つ方も多いと思います。ちょっとした工夫の積み重ねで悩みを解消することができます。

既に地域で活動している皆さんへ

工夫1 活動の目的、目標を伝えましょう

同じ作業をするのにも、「言われたことだけをやってくれ」と言うのと「こういう目的で作業をする」と伝えるのでは、参加者のやる気も満足度も大きく異なります。会の目標やその日の活動の目的をしっかりと伝えましょう。



工夫2 名札をつけましょう

新しく参加した人は皆さんの名前を覚えるのも大変です。お互いに顔と名前が一致することで親近感も高まります。「めんどくさい」と思われるかもしれませんが、活動中は名札をつけましょう。

「名札」をつけている団体ほど、会の雰囲気明るく、会員が新たに活動に参加し、活動も活性化している傾向が見られます。

工夫3 新しい参加者の技量で評価をしない

公園の活動に参加したら「鎌の使い方一つ知らない」と言われて憤慨し、「二度と参加しない」という声を聞くことがあります。「できない」と決めつけるのではなく、「できる」ことを手伝ってもらいましょう。

工夫4 活動を通じて学ぶ場の提供をしましょう

参加する人は活動を通じて「学び、成長したい」という気持ちがあります。弁当作りの一環で飾り包丁の入れ方を教えるといった、ちょっとした工夫をして知的好奇心をくすぐりましょう。



工夫5 たまにしか来なくても嫌な顔をしない

家の事情で定例の活動に毎回参加できない人もいます。時間をやりくりした参加者に「あら珍しい」、なんて言ってしまうと、次からは確実に来なくなります。数回欠席した後の参加は勇気がいるものです。



よく来てくれたね

工夫6 終わったときには「また来てね」

と言われたら誰でもまた参加したくなりますよね。「ありがとう助かった」、「今度はあなたの得意なこれやってほしい」なんて言われたら絶対に次来ますよね。



瀬谷区のマスコットキャラクター「せやまる」

今回のテーマは…

オヤジ × 地域

～男性よ、地域にかえろう～

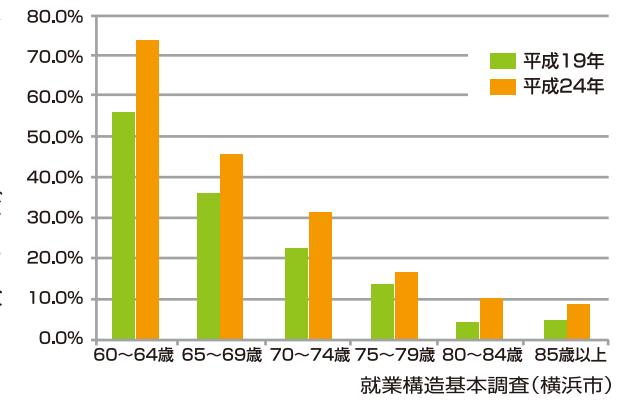
女性は近所づきあいの延長線で地域の活動にすんなりと溶け込むが、多くの男性は現役中は仕事一筋、定年延長などでますます地域との接点が女性に比べて薄くなっていると言われています。そこで、会社から離れた後、いや離れる前に自治会町内会活動やボランティア活動、生涯学習のサークルなど地域とのかかわりを持ち、新たな自分を発見することで、生活の満足度を高めてみるのはいかがでしょうか。

～地域に帰る助走期間を作ろう～

定年延長の影響もあり60歳を過ぎても働き続ける人の割合が各年代で増加し、地域活動を始めるタイミングを見つけるのが難しくなっています。

自治会町内会など地域で活動している男性に話を聞くと、「自分は60歳の定年退職後に地域で活動を始めた。60歳はまだまだ元気に活動できたが、70歳から地域の活動を始めるとなると体力的にも意欲的にも厳しくなってしまうのでは。思いついたときに活動し始めると良いんだよね」と話す方も多くいます。

60歳以上で働いている男性の割合

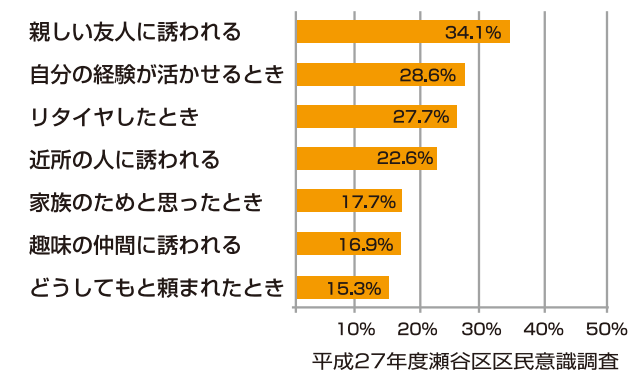


～数字が示す地域活動に参加するきっかけ～

「地域の活動に参加するきっかけ」について調べた調査では、リタイアのタイミングよりも、「友人や隣人など誰かに誘われる」という『きっかけ』が重要で、これと「自分の経験が役に立つ」という『目的・やりがい』が組み合わさったときに活動を始めるチャンスと言えます。

40代、50代からチャンスを探そう

地域の活動に参加するきっかけ(複数回答)



※この号では男性が働いている職場を「会社」と総称しています

編集後記

地域で新たに活躍する人をどのように探し出して、活躍してもらおうかにお悩みの連合自治会、自治会町内会など地域の団体のみなさんからの相談を随時受け付けています。また、地域活動に精通する専門家による相談制度もありますのでお気軽に右記あてにご連絡ください。

瀬谷区役所 地域振興課 地域力推進担当

TEL:045(367)5789

FAX:045(367)4423

〒246-0021 横浜市瀬谷区二ツ橋町190番地



地域への入り方のコツ

会社人間から
脱皮しよう

地域での活動は会社とはちょっと以上に違います。
会社モードで地域に入ると面喰らうこともあります、コツさえつかめば結構簡単です。

コツ1 まずは団体の活動のスタイルにあわせましょう

「こうしたほうがもっとうまくいくのに」、と思って、改善の提案をいきなりしてはいけません。地域の活動の進め方は地域やメンバーの特性にあわせながら積み重ねたものです。



「任せたよ」と言われるまでは提案は控えましょう。

コツ2 働いていた会社名や肩書は言わない

「私は〇〇会社で役員をやっていた」と以前の肩書をいきなり披露する人は嫌われます。地域の活動では会社名や肩書は不要です。「どんな仕事をしてきたの?」と言われてたら少しずつ答えるぐらいがちょうどよいと思います。

そんな質問が来るときはあなたのことを頼ってきている証拠です。

コツ3 地域活動の組織はフラットです

社長や役員が指示し、社員はそれに従う。こんな会社のような地域の活動はあまりありません。会長も会員も井戸端会議のように会話を楽しみながら物事を決めることが多くあります。

雑談力をつけましょう

コツ4 ゆったりとしたペースに慣れましょう

地域で活動する場合、月1回の会合で話し合いながら活動内容を決めることが多くあります。会社のようにスピードや結果がすべてではなく、過程を重視するのが地域の活動です。



コツ5 年下の人たちに指示されるのになれましょう

地域では部下のような年下の男性や女性から「ああやって」、「こうして」と指示されることもあります。会社であまりないことですが、フラットな地域ではそれが普通です。



コツ6 地域デビューの講座を受けてみましょう

区役所や社会福祉協議会、地域ケアプラザ等では地域活動のきっかけづくりの相談を受け付けています。また、地域を知るための講座や男性向けの料理教室など気軽に参加できる講座を開催しています。講座に参加して地域を知り、参加した人たちとつながりができることで、地域デビューの準備をゆっくりとすることが出来ます。

広報よこはまを見てみよう

講座の案内



●瀬谷流！元気の技習得セミナーの案内

12月5日(月)から全3回講座。
問い合わせ先: 高齢・障害支援課 367-5716

●ホームタウンデビュー講座

11月1日(火)、11月8日(火)
問い合わせ先: ニツ橋地域ケアプラザ 361-9807

※詳しくは広報よこはま瀬谷区版10月号をご覧ください。HPからも閲覧できます。

今、瀬谷区ではこんな動きがあります



～地域でちょっとしたお手伝い～「男の手貸します」

庭木の剪定をしてほしい、ちょっとした大工仕事をしてほしいといった高齢者の要望に応える「男の手貸します」というグループが活動しています。お手伝いの依頼が多く、新規ボランティアの参加者を募集しています。



詳細は瀬谷区社会福祉協議会ボランティアセンター 電話 361-2117

～新たな人材の発掘～「資格や特技、やる気を全戸アンケートで把握」

地域の活動にどっぷりとつかりたくはないけれども、機会があれば自分の特技や経験、空いている時間ややる気を活かしたいという人も実は多くいます。そんな人たちの力を地域で発揮してもらおうと、南瀬谷地区、瀬谷第四地区では全戸にアンケート調査を実施しました。二つの地区とも200件近くの方から特技や趣味を地域に活かしたいという回答がありました。



これらの地区では回答していただいた人たちを中心に、どのような活動をしたかの話し合いを行い、実際に活動が始まっています。これらの活動は男性限定ではありませんが、多くの男性の方が積極的に参加しています。

自分のペースで活動に参加できる工夫が地域の中で考えられています。これならば働き盛りの人も気軽に参加できますね。

こんな思いをもっていないませんか？

南瀬谷地区や瀬谷第四地区でアンケートに答えていただいた方にお話をお聞きすると参加のきっかけは大きく下記の3つに分けられます。

- ① 退職を機に仕事で得た知識や経験を地域で活かしたい
- ② ボランティア経験はあるが、地域の活動にはどう参加してよいかわからなかった
- ③ 引っ越す前は地域で活動していたが、引っ越してから参加のきっかけがなかった

また、「自分から手をあげて活動に参加すると目立ちたがり屋にみられると思っていた」、「アンケートを見て自分の知識や経験が地域に役立つのではと気づいた」と言う声もありました。

やる気のある人たちも、活動を始めるきっかけを探しているんですね

